

新型インフルエンザ発生シナリオ

配布資料

はじめに

- ◆ このシナリオは、2007年11月16日実施の政府訓練のシナリオを参照しています。
 - 出典：2007年11月16日「第3回 新型インフルエンザ対応総合訓練計画」新型インフルエンザ及び鳥インフルエンザに関する関係省庁対策会議
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/houkoku/071116keikaku.pdf>
 - 2008年7月30日「新型インフルエンザ専門家会議資料」では、海外で発生してから日本到達まで2～4週間程度と想定されています。本シナリオは、第3回の総合訓練を引用しているため、日本到達までの時間の想定はシナリオに反映していません。
- ◆ 世の中、政府、金融の動向は、厚生労働省の新型インフルエンザ専門家会議にて提示された経済状況の想定を参照し、一部において、特定非営利活動法人事業継続推進機構(BCAO)新型インフルエンザ研究会の想定を加えています。
 - 出典：2008年7月30日「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン(改定案)参考A 新型インフルエンザ発生時の社会経済状況の想定」
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/07/dl/s0730-13f.pdf>
- ◆ 国内の発生段階は、「新型インフルエンザ行動計画」および「新型インフルエンザ対策ガイドライン」を参照しています。
 - 出典：2008年11月27日「新型インフルエンザ行動計画」(案)
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/dai22/siryou2.pdf>
 - 出典：2008年11月27日「新型インフルエンザ対策ガイドライン」(案)
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/dai22/siryou3.pdf>

訓練シナリオ

1. 鳥からヒトへ、ヒトからヒトへ？

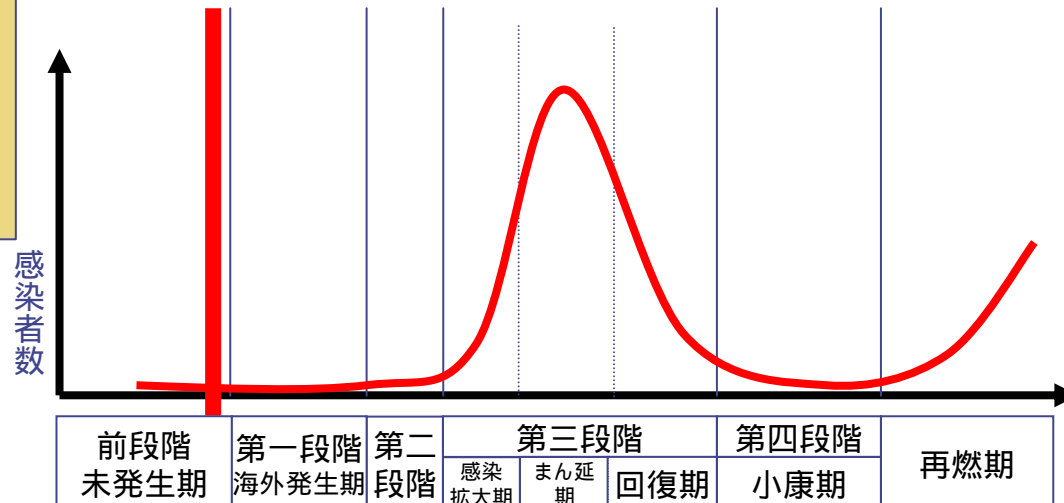
20xx年9月下旬から10月上旬	X国Y市において養鶏に関わる男性が重症の肺炎症状を発症し、緊急入院。WHO調査の結果H5N1が確認されたことが報道される。
20xx年10月15日	男性は、 <u>多臓器不全により死亡</u> 。男性の家族および男性の治療にかかわった医療従事者において <u>同様の肺炎症状が増加</u> し、「ヒト-ヒト」感染の可能性が報じられる。

【世の中】

- 一部のメディアにて脅威が報道される

【政府など】

- 官邸に情報連絡室が設置
- X国在留邦人輸送の準備開始
- 水際対策の実施準備



メモ

A series of ten horizontal dotted lines for writing notes.

訓練シナリオ

2. WHOフェーズ4: ヒトからヒトへ

20xx年10月20日

X国Y市では、H5N1患者15名が確定。その他検査中の患者が73名。同国他市においては、発生がみられないもののWHOはフェーズ4を宣言。*第一段階海外発生期

【世の中】

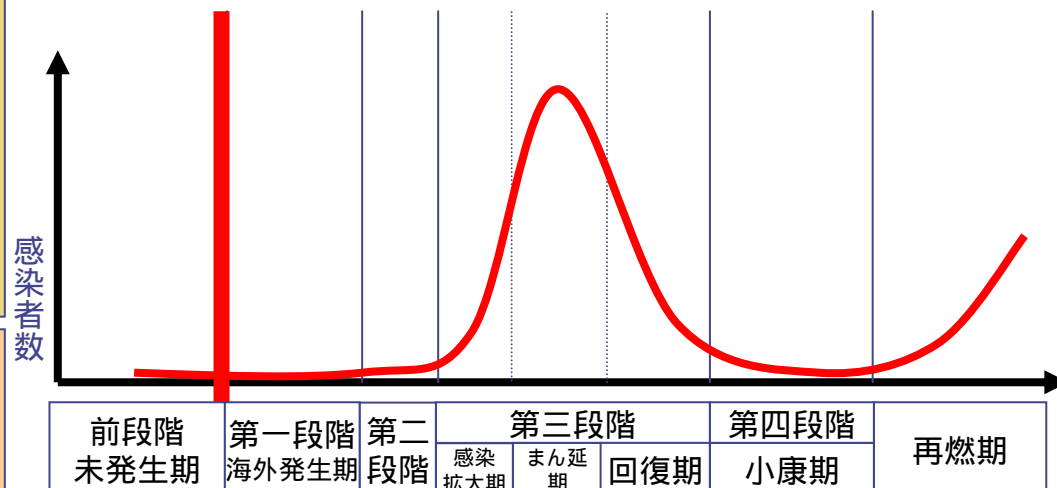
- ・全てのメディアにて脅威が取り上げられ、様々な情報が流れ始める
- ・大衆に「買いだめ」「備蓄」の意識が高まり、買い物が増える
- ・企業において感染予防策が実施され、マスク着用が励行される

【政府など】

- 対策本部、官邸対策室設置
- X国民へのビザ発給停止、X国への渡航延期の呼びかけ、在留邦人の安全確保
- 全国の保健所にて発熱相談センターの設置準備開始
- プレパンデミックワクチンを医療従事者ほか社会機能維持者に接種開始

【金融】

- ・危機管理組織の設置などの準備
- ・海外出張の自粛
- ・感染予防策の強化



メモ：第一段階海外発生期の対応

	全体体制	感染予防策 勤務措置	業務継続方法
対策例			
留意点			

訓練シナリオ

3. WHOフェーズ5: ヒト・ヒト感染発生より約2週間

20xx年10月下旬

X国内において、感染が拡大。WHOをはじめとした機関による封じ込めが行われるが、隣接したW国、Z国にも感染が拡大していった。

**WHO Level 5宣言*

【世の中】

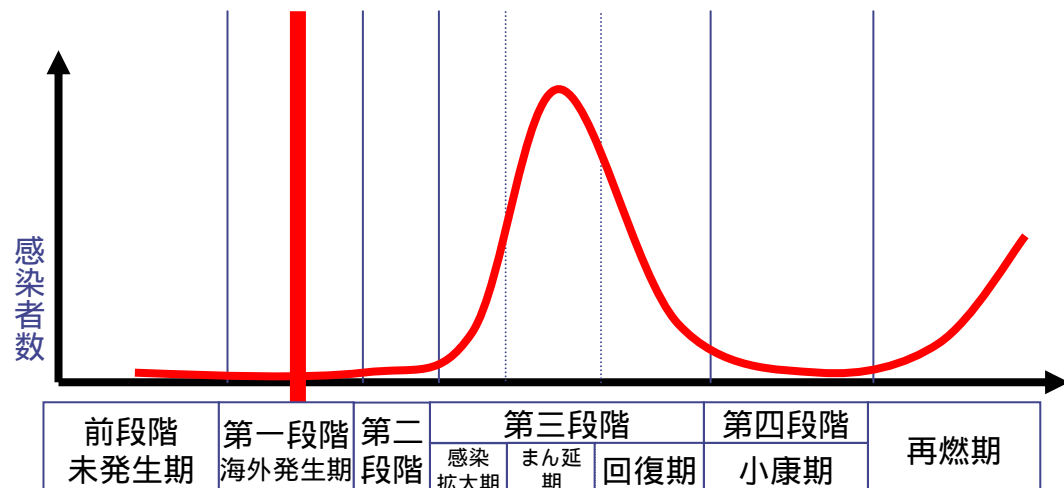
- メディアにてますます脅威が取り上げられ、国民はますます不安に
- 「買いため」の意識が一段と強くなる。マスクなどの備品が品不足になり始める

【政府など】

- 成田空港は、X国およびその周辺国からの帰国者であふれかえる
- X国P空港からの運航自粛ならびに検疫空港の集約化
- 防衛省は、X国への自衛隊派遣の検討開始

【金融】

- 現金を引き出す市民が増加しはじめる (ATM利用増加)



メモ

A series of ten horizontal dotted lines for writing notes.

4. ヒト・ヒト感染から1ヶ月：日本へ？

20xx年11月1日	<u>Z国から帰国中のA氏(35歳男性、会社員、都内勤務)</u> は、 <u>機内で40度近い発熱</u> と急性の呼吸器症状を呈する。到着後A氏は保健所管理下に。濃厚接触者は、停留を命じられる。その他の同乗者は、帰国後の指示を受け帰宅。
20xx年11月2日	国立感染症研究所での確定検査によりA氏から採取された検体は <u>H5N1</u> であることが判明
20xx年11月中旬	X国から帰国してくる者から新型インフルエンザの疑われる患者が増加。これまでに <u>A氏以外に2名の発生</u> があったが、いずれも <u>感染拡大にはつながらない</u> 。X国および周辺国からの帰国者は後を絶たない。
20xx年11月26日	X国に長期出張し、 <u>4日前に帰国したB氏(成田市在住)</u> は、 <u>昨日からの発熱により欠勤</u> していた。B氏は、保健所に連絡。

【世の中】

- 最初の報道から1ヶ月程度が過ぎることで、ニュース性が薄まってくる
- 少々警戒疲れが見られ、警戒態勢を維持する者と楽観視し始める者と二分化する

【政府など】

- インフルエンザ株の特定、パンデミックワクチン生産に向けて活動が継続

メモ

A series of ten horizontal dotted lines for writing notes.

訓練シナリオ

5. 1ヶ月半後：国内発生早期－帰路に感染か？

20xx年11月27日	B氏(成田在住)の検体からH5N1が確認。B氏の濃厚接触者の健康監視開始。都道府県より各指定医療機関へ発熱外来の設置要請。 *第二段階：国内発生早期
20xx年12月3日	X国周辺をはじめ感染者は、13カ国に拡大。 発生国を中心に物流や経済活動の停滞が顕在化 。世界的な物流不足、物価上昇が懸念される。 *WHO Level 6宣言

【世の中】

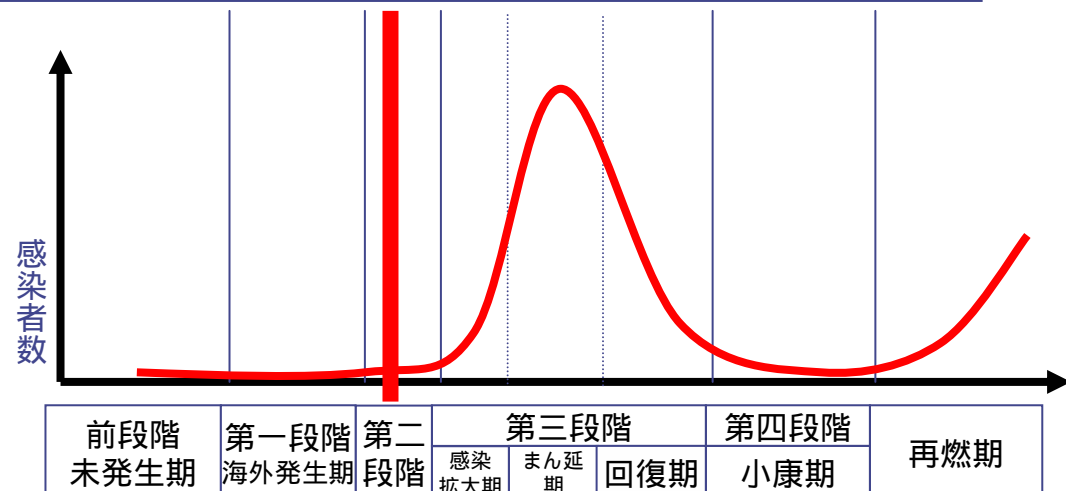
- **学校閉鎖**にともない欠勤する従事者増加、事業所での健康管理が強化される
- インターネット・電話の使用が増える

【政府など】

- 千葉県をはじめ、**関東首都圏の学校閉鎖開始**
- 各保健所で発熱相談センターが開設

【金融】

- **現金を引き出す市民が一段と増加**
(ATM利用も一段と増加)



メモ：第二段階国内発生早期の対応

	全体体制	感染予防策 勤務措置	業務継続方法
対策例			
留意点			

訓練シナリオ

6. 日本で感染拡大 - 上陸後1週間で感染拡大期に

20xx年12月4日	B氏死亡
20xx年12月5日	<u>発熱患者のうち3名からH5N1を確認。患者は不特定多数と接触。疫学上の調査が不可能と判断。*第三段階-感染拡大期</u>
20xx年12月13日	欧州、北米においても感染が拡大。 <u>国内では、200名の感染が確認され、千葉県においても20名の感染者を確認。</u>

【世の中】

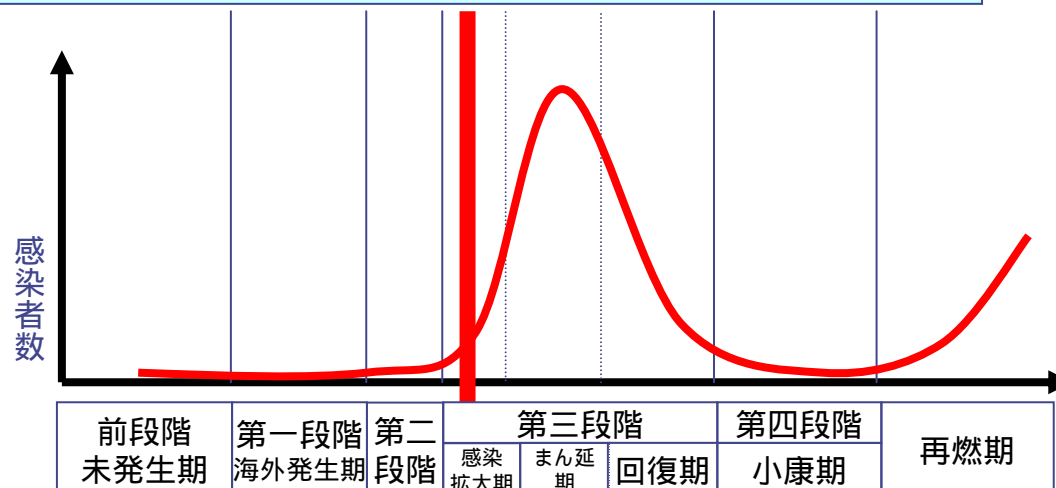
- 食料、物資の不足、資金調達や支払いなどの決済業務が混乱し始める
- 対人販売中断、縮小。電話・インターネットによるサービスが継続
- 供給が減る中、駆け込み需要が増える

【政府など】

- 医療機関への受診者が急増
- 健康相談を希望するものも急増、発熱相談センターの対応が限界に

【金融】

- 窓口業務が中断の恐れ
- ATMへの現金流通が滞り、一時的にサービスを中断



メモ

A series of ten horizontal dotted lines for writing notes.

訓練シナリオ

7. 上陸1ヵ月後：国内まん延期

20xx年12月下旬から
1月中旬

関東地方において、感染拡大がみとめられる。また、全国的に症状を訴える人が後を絶たない。***第三段階—感染まん延期**

【世の中】

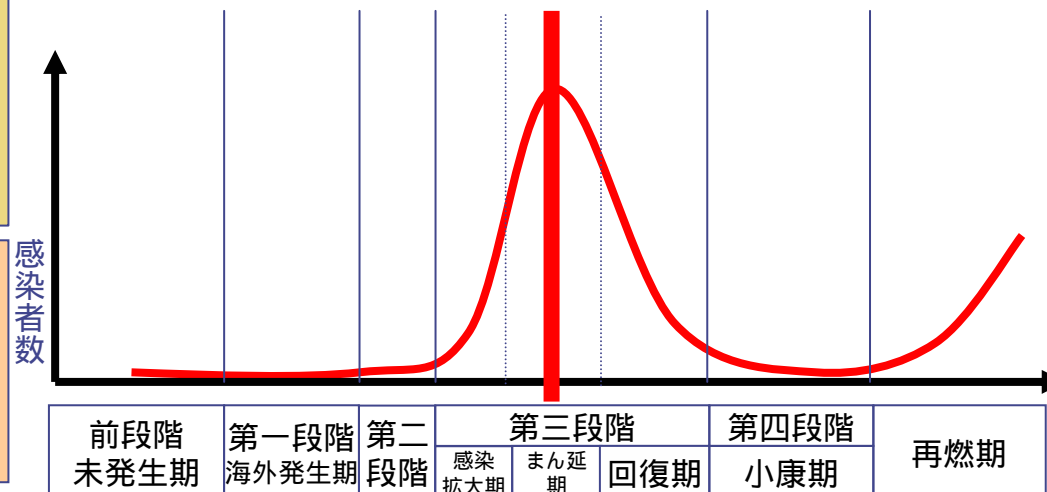
- ・労働力が40%減、原材料などの不足、資金繰りの悪化、サプライチェーンの機能が低下し、**多数の企業の経営悪化**
- ・公共交通機関の運行本数が減少、外出控えにより利用者も激減

【政府など】

- ・罹患者は**自宅療養を主とする**
- ・**宅配、通信販売による需要が増加、クレジットカード利用者急増**
- ・最低限の生活維持のための食糧供給、ライフラインサービスは継続

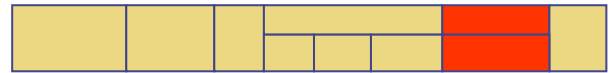
【金融】

- ・最小限の従業員による勤務体制の継続
- ・決済機能、ATM機能、保守・運用業務を維持(そのほかは縮小・中断)



メモ：第三段階国内発生拡大期・まん延期の対応

	全体体制	感染予防策 勤務措置	業務継続方法
対策例			
留意点			



8. 上陸より約2ヶ月：小康期

20xx年2月上旬

国内での感染の広がり一旦小康状態に入ったことが認められ、政府より第四段階の宣言がなされる。

***第四段階：小康期**

【世の中】

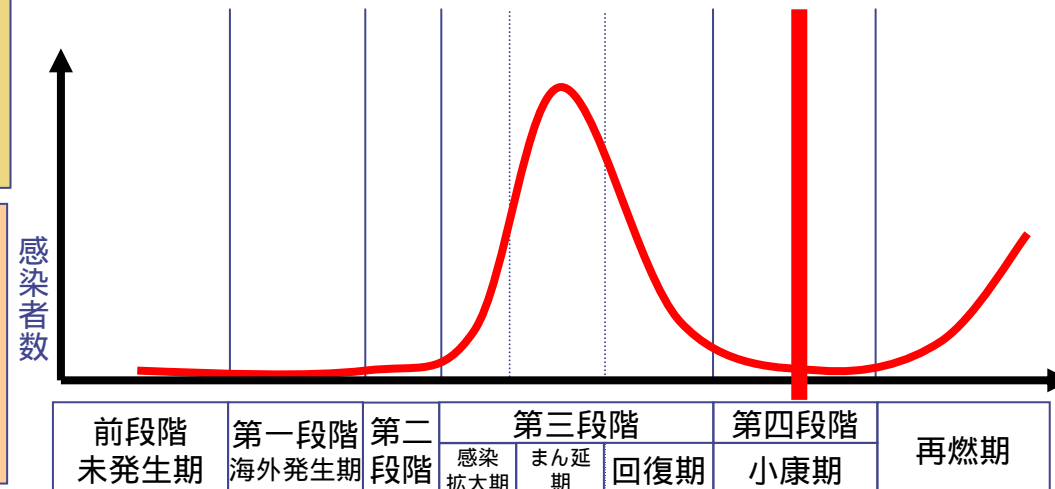
- ・従業者が復帰する傾向がみられる。欠勤率は数%に減少
- ・感染予防策を実施しながら、**徐々に縮小・中断した業務の再開**
- ・輸入・製造などが再開する

【政府など】

- ・監視体制は継続するが、徐々に事業を再開し、体制を整える
- ・在庫品・備蓄品の**再調達**などが開始

【金融】

- ・感染拡大防止策は継続し、最低限必要な業務は継続している
- ・各界の業務再開に伴い、パンデミック期の清算などの業務が増える



特定非営利活動法人 事業継続推進機構



A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)

本部:

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-1-21 新虎ノ門実業会館ビルB3階

TEL: 03-5521-2235 FAX: 03-5521-2236

Eメール: bc@bcao.org

ホームページ: www.bcao.org

支部:

〒553-0006

大阪府大阪市福島区吉野4丁目29番20号大阪NPOプラザ内115号

TEL: 06-4804-6761 FAX: 06-4804-6762